

## 学習・言語心理学

[講義] 第2学年～第3学年 後期 選択 2単位

《担当者名》上河邊 力 (心理科学部)

### 【概要】

学習心理学は、行動や認知の学習プロセスを科学的に理解することを目的とした科目である。本授業では、古典的条件付け、オペラント条件付け、洞察学習といった公認心理師試験出題基準に記載された理論と応用を取り扱う。本科目は、臨床心理学における介入技法や行動変容の基礎となる理論を提供するものであり、クライアントの行動パターンの理解や心理療法における効果的なアプローチの開発に寄与する。さらに、公認心理師養成課程の一環として、心理支援を行う際の科学的根拠に基づいた方法論を学ぶ重要な科目である。この科目の学習を通じて、臨床現場での課題解決能力の向上が期待される。

### 【学修目標】

学習心理学の基礎理論と応用を理解するために、主要な学説や研究結果を体系的に理解する。  
行動変容や学習支援の実践に役立つ理論的知識を身につける。  
関連する実験や応用例を学ぶことで、古典的条件付けやオペラント条件付けの基本原則を説明できるようになる。  
学習理論を基にした行動分析の手法を適用できるようになるために、ケーススタディに積極的に取り組む。  
学習の評価方法について学び、グループ活動を通じて実践する。

### 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

### 【ディプロマポリシー（学位授与方針）との関連】

DP3. データサイエンティストとして、社会の変化に関心を持ち、人々の新たなニーズに創造的に対応できるように生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

DP5. 複雑化する医療・保健・看護・福祉・心理の現場での医療専門職とのコミュニケーションを通して多職種で協働し、データサイエンティストとしての専門性を発揮する姿勢を身につけている。

### 【実務経験】

公認心理師、臨床心理士

### 【実務経験を活かした教育内容】

医療機関（精神科、小児科）や教育機関（小・中学校）における公認心理師としての実務経験を通して得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。